

令和5年度 第1回銚田市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和5年7月25日(火) 開会13時30分 閉会14時30分

2 会 場 銚田市旭総合支所2階会議室

3 出席者	銚田市長		岸田 一夫
	銚田市教育委員会 教育長		安原 優
	同 教育長職務代理者		山口 正雄
	同 委員		飯島 功成
	同 委員		大原 優子

【説明員】

総務部長	竹内 正利
総務課長	佐藤 嘉雄
総務課長補佐	竹澤 秀之
教育部長	柳澤 暁
指導課長	宮内 孝浩
教育総務課長補佐	綿引 哲也
教育総務課係長	鬼沢 知輝
生涯学習課長	桜井 治
生涯学習課長補佐	菅谷 智一
生涯学習課係長	日向寺 崇史
生涯学習課主査	石神 知子

【事務局】

政策企画部長	井川 斉
政策秘書課長	菅谷 利幸
政策秘書課長補佐	額賀 栄一
政策秘書課係長	小沼 裕一
政策秘書課係長	鎌田 あゆみ
政策秘書課主事	白田 真也

4 議事の概要

○開会

○岸田市長あいさつ

みなさんご苦労様です。本日は、大変お忙しい中、銚田市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様には、日頃より本市教育行政にご尽力賜り、心から感謝申し上げます。

さて、去る5月8日、これまで複数年に渡り、社会・経済へ大きな影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、2類相当から5類へ移行し、私達の生活がこれまでの日常にもどる大きな節目を迎えました。今後は、かつての日常を取り戻し、様々な分野での交流、地域活動や経済活動が動き出し、出会いがたくさん生まれ、地域が明るく活気に満ち溢れることを期待しております。

新型コロナウイルス感染症の影響を最も受けたのは、学校現場であり、子どもたちであると私は痛感しています。過去は取り戻すことはできませんが、これからの学校生活において、コロナ禍以前にも増して活発な教育活動が行われることを切に願うとともに、銚田の未来を担う子どもたちの健全な育成のために、市長として最大限の協力をしてまいりたいと思っています。

また、6月には、「銚田市メロンの日」に合わせ、市内学校給食において、JA協力のもと、銚田市産メロンを提供いたしました。子どもたちには、地元の特産品に誇りをもってもらうとともに、地域の基幹産業である農業への理解を深め、地元を愛する心を育んでほしいと願っております。

引き続き、本市の教育行政につきまして、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

さて、今回は、「学校と地域のかかわり」に関することを中心に意見交換をしたいと思います。忌憚のないご意見をお願い申し上げます。どうぞ、本日はよろしくお願いいたします。

○協議事項（議長：岸田市長）

（１）今後の学校と地域のかかわりについて

～将来を見据えた地域コミュニティづくり～

- ・ 本日の協議事項について（説明：菅谷政策秘書課長）
- ・ 行政区の現状について（説明：佐藤総務課長）
- ・ 子ども会の現状について（説明：桜井生涯学習課長）
- ・ 学校における地域とのかかわりの現状について（説明：綿引教育総務課長補佐）
- ・ 今後の方向性について（説明：井川政策企画部長）

【主な質疑等】

【岸田市長】 私が危惧しているのは、地域のコミュニティが希薄になっているということです。それをどのように解決していくのが良いかと考える中で、学校単位で、子どもたちを交えた地域コミュニティを活発にしたいと考えました。

世界には沢山の国がありますが、子ども会や消防団等の日本独自の関わりがあったからこそ、地域が子どもたちを愛情をもって育てることが出来たのだと私は考えています。

私の経験上、父親や母親が忙しい時には近所の皆様にお世話になりましたし、子ども会活動を通じて、学校活動でない部分での人間の成長があったのではないかと考え、今回の議題を取り上げたところです。

委員の皆さんのご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【山口委員】 「①行政区の現状」から「④今後の方向性について」までそれぞれ説明を受けましたが、それぞれ区別できるものではなく、全部がつながっているのだと思います。ですから、どれか1つが良くなればよいということではなくて、何かに取り組めば他の何かが良くなって、それがつながって、学校も、地域も、行政もみな良くなっていくものと考えています。

子ども会の数が減っているという説明がありましたが、私の住んでいる地域も含め、そもそも子どもが減っていることにより、子どもの繋がりが少なくなり、大人の繋がりが減ってきてしまっているのだと思います。

これらを解消するのは非常に難しく、決定的な手段はないと思いますが、1つ1つ考えられることに取り組んでいかなければ、地域が消滅してしまうなということ強く感じています。

個人的には対面することがより強いコミュニティの構築につながると考えま

すが、最近はデジタル技術が発達し、遠隔地でも通信ができるようになってきておりますので、時代の流れを考えますと、そういった手段を活用するということもコミュニティをつくる1つの対策ではないかと考えます。

【岸田市長】 コロナ禍もあり、様々な制約の中で、近所でのコミュニケーションも取りにくく、地域コミュニティを維持することは難しい部分があったかと思います。しかし、新型コロナウイルス感染症の扱いが5類に移行しましたことから、現状を打破していくためどのようなことができるのか考えていかなければならないと思います、今回の提案をさせていただいているところです。皆さんの意見を伺いながら、子どもたちのためには何が良いのか、地域コミュニティの復活のためにはどのようにしていけば良いのか、考えていきたいと思います。

【安原教育長】 学校は、地域の文化の中心になってきたものと私は考えます。地域の方々との交流は、私が教員時代は非常に多かったのですが、それが薄らいできているということを懸念しています。

子ども会の推移をみると、令和元年から令和3年にかけて急激に減少しています。減少してきているということは、学校、地域、家庭の繋がりが薄らいできているということであり、子どもの成長にも影響を及ぼすことから、今ここで何らかの手を打たなければならぬと考えています。何年後かに「あの時取り組んでいれば」となってからでは遅いです。今、この時期が一番大切だと考えています。

子どもの活動を核として、そこに大人が関わって、地域との繋がりがや保護者の繋がりが生まれていくのかなと考えておりますので、我々がどういった仕組みを作っていけるのか、真剣に取り組んでいかなければならないことだと考えております。

【飯島委員】 様々な課題について説明いただきましたが、実際に私が住んでいる地域でも、子どもが少なくなり、小学校も統合され、旧小学校が閉校となっています。その中で、(旧小学校区単位でのまとまりも重視して)旧小学校をうまく活用する方法があれば良いという話が出ています。

その1つとして、新型コロナウイルス感染症の影響もあって、集まり、コミュニケーションをとる機会が減ってしまった現状において、集まる「場」を作りたいと考えている方が自分も含めて沢山いるのではないかと考えています。旧小学校でイベント等を行うことで、次の世代の新たな地域交流の場となると良いなと思っておりますが、そういったことに関して、旧小学校の跡地の現状と、市の支援策などがあれば、教えていただきたいです。

【井川部長】 閉校小学校につきましては、鉾田市学校跡地利活用計画を策定しておりまして、一部行政活用する部分もございますが、基本は民間活力を活用しようということで、提案を受ける体制をとっています。現在、鉾田地区の学校のみですが、今後、大洋地区も公募し、有効活用できる民間事業を募集していく予定となっています。

具体的な活用方法については今後となりますが、地域での活用に関しましては、まちづくり推進課において地域の活動に対して補助金も用意しておりますので、活動の後押しをさせていただけると考えております。

【飯島委員】 地域住民が、旧小学校を使ってイベントを企画したいとなった際に、地域のイベントとなれば助成がいただけるということで、鹿島灘海浜公園で行われるイベントが非常に盛り上がっていると思いますが、それらの小規模版がいくつかの地

域で立ち上がると、コミュニティを構成していく何かのきっかけになるのではないかと考えたので、参考にさせていただきたいと思います。

また、旧小学校の草刈り等を、子ども達も含めた地元の方々とボランティア活動として企画出来るようなことがあっても良いのではないかと思います。自分の子や孫でなくても、大人が子どもたちと接する機会が増えることは、非常に価値のあることであると考えています。

先日、幼稚園の児童と老人ホームの高齢者が交流する機会がありましたが、非常に盛り上がりました。そういった1つ1つの機会が、非常に価値のあるものだと思いますので、場の提供ということを行政の方で取り組んでいただければと感じました。

【岸田市長】 子どもたちと高齢者の交流が非常に盛り上がったというお話は、職員たちにも非常に新鮮に映ったと思いますので、今後の参考とさせていただきます。

【大原委員】 子ども会の推移を拝見し、想像していた以上に子ども会加入率が激減しているということに驚きました。飯島委員のお話にもありましたが、子どもとお年寄りの交流は、お互いにとってものすごく有効であると思います。

新しい小学校を見せていただいたところ、地域の方々が利用できるスペースをご用意いただいていると思いますので、お年寄りの方に限らずそのスペースを活用する機会を意識的に作っていただければ良いのではないかと思います。

現役時代、シニアクラブの方々にお声掛けして、小学生と交流していただきましたが、そういった機会を意識的に作って、そのスペースを活用していただければよいのではと考えました。

地域で支えられ、地域で育てられた子どもたちは地域に愛着、誇りをもつという考え方は本当にそのとおりだと考えます。新宮小や鉾田小でお祭りを経験させていただきましたが、子どもたちが大人になった時覚えているのは勉強をしたときのことではなく、お祭りでひょっとこ踊りや太鼓をやって誰が上手だったということや、どこどこ地区のお雑煮が美味しかったといったことだと思います。これらは、とても大事な思い出になり、文化につながるのだと思いますので、鉾田南小学校は統合してしまいましたが、どうか工夫してお祭りの形をとったり、地域の方が参加できる行事を考えたり、そういったことを何とか復活していただけるとありがたいと思いました。

【安原教育長】 大原委員の意見に関連することですが、地域コミュニティを再生するために教育の現場からどうやって関わるができるか考えてきました。

その中で、新しい学校に設けた地域交流室の活用はどのようになっているのかというお話が良く出るのですが、今現在、生涯学習課を中心にコミュニティスクールの立ち上げを順次していきたいと考えているところです。今後どのように進むかは、これから計画の段階ですが、今年は推進委員会を立ち上げ、コミュニティスクールの検討を行い、令和6年度に鉾田北小中学区でコミュニティスクールを立ち上げる予定としています。

そのコミュニティスクールの今後の目標として、地域のコミュニティの再生、学校を核とした再生、それをどのように行っていくのか、先程お祭りなど様々なお話が出ていましたが、地域が子どもを支える、地域が学校を支える関係性を、新しい統合小学校を中心に進められればと考えております。

また、学校の歴史を見ますと、以前にも学校の統廃合を経験しています。以前の統合では、統合した後もしっかりと地域の繋がりをつくってきたという歴史も

ありますので、新しい小学校でそういったことができないとは私は考えておりませんので、ぜひ、コミュニティスクールを中心に地域の繋がりが、また学校、子どもたちの繋がりが出来ればよいと考えております。

【山口委員】 学校、地域、子ども、行政などをつなげていくには、核となる人物がどうしても必要と考えます。行政として下支えすることと、核となる人をどう育てていくか、飯島委員からそういったことをしたい人は沢山いるはずだ、というお話もありましたが、そういった人たちが動きやすくなるような支援を行政の方でしていただけると、動きやすくなるのかなと思いました。

お祭りの例もありましたが、お祭りに限らず統合前の各学校の文化を継承できるような行事などを、行政ができる支援をPRしていただければ、必ず地域で動ける人が出てくるのではないかなと感じました。

【岸田市長】 忌憚のないご意見ありがとうございました。いただいたお話を参考に教育のさらなる発展を目指していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

その他、質問・意見等がないようですので、以上をもちまして議長の職を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

5 閉 会